

多面的機能高度発揮総合利用システム開発事業(継続)

【平成19年度概算決定額 31,551(68,102)千円】

事業のポイント

間伐における効率的な作業システムの核となるアタッチメント式汎用作業機械及び被害木処理作業を効率的に実施できる遠隔操作型林業機械を開発します。

- ・ 近年は台風等による被害が大きく(平成16年度は被害区域面積約48千ha、被害額約340億円)、被害木の処理が急務。
- ・ 本事業の「森林環境への負荷低減に配慮した機能を持つ高性能林業機械等の改良」については所期の目的を達成し、平成18年度で終了。

政策目標

同様の機能を有する在来型機械に対し、処理能力等を20%向上させた機械の開発を実施

<内容>

森林の多面的な機能を持続的に発揮させるためには、従来の皆伐施業に加え間伐をはじめとする非皆伐施業による森林整備を促進することが課題となっていることから、非皆伐施業においても効率的な作業をなし得るシステムの導入を図るために必要な機械を開発します。

1. アタッチメント式汎用作業機械の開発

伐採等の各種作業が実施できる低価格で汎用性の高いアタッチメント式汎用作業機械を開発します。

2. 遠隔操作型林業機械の開発

台風による大規模な風倒木被害に対し、早期に跡地の復旧造林を進めるために、被害木処理作業を効率的に実施できる遠隔操作型林業機械を開発します。

<補助率>

1/2

<事業実施主体>

民間団体

<事業実施期間>

平成16年度～19年度(4年間)

[担当課：林野庁研究・保全課]